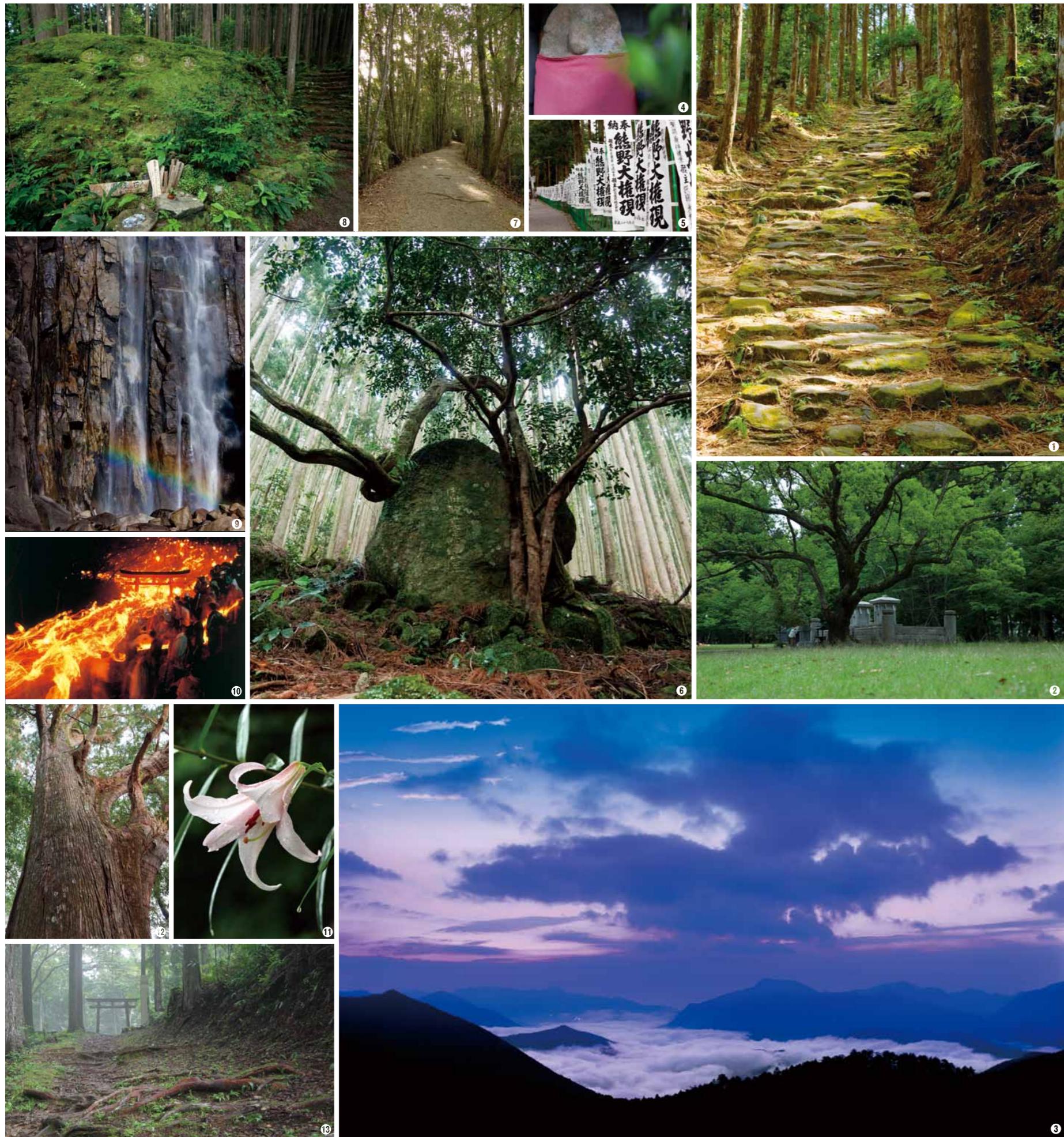


混沌に魅入られた領域。



杉木立から眩しく差し込む陽。
苔むした巨岩。森の懷に続くかの
ような石畳。時に葬られたかの錯
覚を、可憐な路傍の花がみつめてい
る。紀伊半島に抱かれた古道は、未
だ亡者が歩く道があり、修驗の道
があり。

どれほどに鬱蒼と険しいのかと
構えていると、意外なほどおおらか
で豪快で拍子抜けするほどに明る
い表情をみせ、陰と陽がクロスオー
バーよる。

隈の地・熊野は、神話の時代から
神々が鎮まる特別な場所であり、
神と仏がいまなお強く繋がる日本
人の精神性が具現化されたテリト
リー。太古の昔から人々の篤い信
仰を集めてきた。そこでは、空間や
時間、秩序を超えて混沌とモノが
存在し、その大きいなるモノとともに
ヒトは生きている。

自然と人の営みが長い時間をか
けて形成した奇跡ともいえる風景
は、今も人々を魅了し続けている。

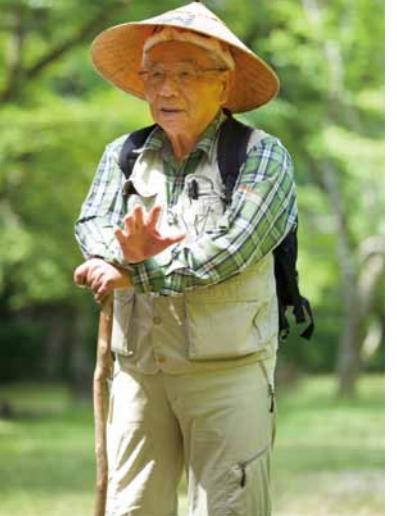
①石畳の古道 ②熊野本宮大社の旧社地、大斎原 ③熊野川に広がる雲海 ④小さなお地蔵さん ⑤熊野本宮大社参道 ⑥楠の久保旅籠跡周辺 ⑦設築と呼ばれる海沿いの古道 ⑧梵字が刻まれた円座石 ⑨那智の大滝 ⑩神倉神社のお燈祭り ⑪古道沿いに咲くササユリ ⑫野中の方杉 ⑬発心門王子に続く古道

世界遺産登録から10年、
「熊野」という宝をいつまで
も残していくかんとあかん。
そういう意識が地元の人
たちに浸透したことが、最
大の変化ではないでしょうか」と語る坂本さんは、熊
野の語り部の産みの親とも
いえる存在。

「熊野古道 자체が歴史で
あり物語である。道端の一
本の木、お地蔵様の一つに

として、この素晴らしさを
次代に語り伝える。それは
ごく当たり前のこと」だと
とつとつと語ってくれた。

10th
anniversary
Interview
坂本 勲生
Sakamoto Isao
熊野本宮語り部の会会長



人類の宝を未来に語り継ぐ喜び